

糺納涼^{たすすまみ}はみな月十九日より晦日に至るまで、下鴨社頭^{しもかものしやとう}御手洗川^{みたらしがは}のほとり、神の杜の木陰に茶店を設けて遊宴して炎暑

を避るなり。雲井^{くもゐのうへのやしろ}於社の清泉には、甘瓜心太を冷し、御手洗団子は竹串に刺て売る。上賀茂^{かみがも}には申樂ありて林間に笛鼓

の音さへていと涼し、夏の火と秋の金は火尅金にて相生ぜず、故に厄氣を和難の神事なり、これを夏越の祓といふ。下

鴨^{かも}を御祖神社、上賀茂^{かみがも}を別雷神神社といふ。〔延喜式云、名神大月次、相嘗、新嘗〕延暦四年十一月詔有て愛宕郡^{おたぎのこほり}にて封

十戸を充らる。〔続日本紀〕又弘仁十年三月には中祀に准ぜらる。〔日本後紀〕承和十一年の冬には社辺の河水を汚す事

を禁じ、或は社域の四至を定る事俱に太政官符に見へたり。仁寿二年七月には祈雨の奉幣ある、即日甘■を得る事文徳

実録に署し。天慶五年四月には始て行幸あり。又愛宕郡^{おたぎのこほり}の中、賀茂^{かも}、小野^{をの}、錦部^{にしきべ}、大野^{おほの}、の四郷を神田とし給ふ事野府

記及び太政官符に出たり。

貝原京城勝覽曰〔下鴨の社、南にあるは御祖^{みおや}の社なり、又河合^{かはひ}の社と云。かも川^{たかの}高野川此下にて一つに落あふ故に、河

合と名づく、河合をたゞすともよめり。本社は北にありて其間へだ、れり、道は東西に二すぢあり。本社の東南に

みたらし川あり、清泉わき出る、夏も甚ひや、かなり。糺の杜あり、此社頭^{かきやう}尤佳境なり、林泉^{りんせん}も亦きよし、遊人た

へず。四月中の午の日、神輿^ひ日枝山^{えのやま}の麓^{たかの}高野村^{むら}の御蔭山^{みかげ}に行給ふ祭あり、伶人も多く往て、彼やしろにて音楽を奏

す、道中にて音楽あり。其日御帰祭あり、御蔭^{みかげ}のやしろは、下鴨の神はじめて来現の処なり。此日は勅使なし、

間二日をへだて中の酉の日、まづ下鴨^みの御社^{やしろ}に勅使立給ひ、官司も多く従ふ、伶人多くきたり神前にて音楽を奏す、

舞樂もあり、大祭なり。これを葵祭といふ。貴賤あつまり見る事夥し、事はて、後、其日勅使下鴨しもかもより上賀茂かみかもへ行給ふ、官司伶人も亦従へり。○上賀茂神社、当国の一ノ宮みやにて、平安城のいまだ立ざるさきより有し御社なり、大社なり。其地は後に山前に川ありて、陽にむかひ陰にそむけり、畿内の奥、平安城の上流にあり、山のかたちうるはし 川のながれいさぎよく、御社みやしろのたゝずまひこと所にかはり、誠に神秀の氣のあつまれる処いとすぐれたる靈地なり。王城の鎮守となり給ふ事むべなるかな。此御神の靈異はひとの国まで聞え給ひしにや、皇朝類苑といへるもろこしの書にも此御神の事を詳にしるせり。王城に来れる人は閑暇ありて遊觀をなさば、先づ此下上の御社みに参るべし。凡かうやうの大社に詣来る人は、心身いさぎよく斎戒して拜すべし、しからずばみだりに神祠に入て拜をなすべからず。只遊覽せんとならばおそれうやまひて神前になれちかづくべからず」

○〔境内に御手洗川みたらしあり、神山かみやまより流れ出て本社ほんしの御前をすぎ、やがて其下流をならの小川と云、ならの社の西に流る、古歌によめる名所なり。ならの社は此小河の東にあり。其北に岩本橋本の社あり。片岡かたおかの森は本社ほんしの東南にあり。社の西に市原鞍馬貴船いちばらくらまきぶねに行道あり。○四月中の酉の日の葵祭に、勅使先づ下鴨しもかもの社に詣給ひて後、此御社に参り給ふ。官司及び伶人も多く来り、礼式あり、音楽舞曲を奏す。勅使以下往来の行粧うるはし、其古雅なる事類なし。下鴨にても同じ。石清水いししみづの祭を南祭といふ、此祭を北祭といふ、是古今天下の大祭なり。賀茂下上の今日の祭、及び石清水の放生会の勅使等は、古有て中頃久しく絶たりしが、近年すたれるをおこして行はせ給ふ、いなか

人も此頃都にあらばかならず見るべし、こと祭にかはりていづれもふるめかしく殊勝の事なり、これを見るにもいにしへの事しのぼし。○上賀茂かみかもの北に御生所みあれの野といふところ神山かみやまの西北にあり、賀茂明神初めて出現し給ふ所なり。今日関白殿参詣し給ふ、社人氏人参る。○五月朔日、此神前にて競馬の足そろへの試あり。五月五日に競馬あり、諸人群集する事夥し。云々」

夫 木 片岡やみかきが原の葵ぐさけふかざゝでは誰かかざゝん 平 和 拳

御 集 賀茂山のふもとの芝の春風にみたらし川の氷とくらし 後 鳥 羽 院

山 家 月のすむみおや河原に霜さへて千鳥とをたつ声聞ゆなり 西 行 法 師

鴨祠春望（鴨祠ノハ所ハ崇祠スル神武天皇也故有ナリニ皇祖ノ名）

緑鴨江開鳳闕東。 一林春色ノ鬱トシテ 葱葱。 龍 公 美

何年レノカ銷歇ス旧齋院。 終古依然タリ 御祖宮。

大岳北懸ニラ千巖秀テ。 清流南合ニ三川通ス。

興来有テ意レ 村酒スルニ。 頼是杖頭ヒニレ錢未タ空レ。

水久し月長明を瘦ズざらしむ 如 泉

夕立や双六の賽鴨の川 木 導

ほそりゆく蟬の小川や秋の声

文

素